

ひょうごの遺跡

兵庫県立考古博物館

平成20年(2008)

69号

11月20日
発行

市之郷遺跡 姫路市市之郷

「ものづくり大学校（仮称）」整備事業に伴い、仮称姫路駅周辺第3地点のうち、市之郷廃寺と市之郷遺跡部分の発掘調査を行いました。調査地点はＪＲ姫路駅の東約1.6kmの地点で、高架になる前のＪＲ山陽線が走っていた部分にあたります。



仏堂跡西部（北から）

市之郷廃寺

市之郷廃寺部分では寺域のほぼ中心部を調査し、仏堂跡を検出することができました。仏堂跡は基壇の下部が残存しており、残存部分での規模は東西約20m、南北約16mで、高さは60cm程度残っていました。基壇下の北側と西側では、堂の屋根から落下した瓦が集積された状態で列状に多量に検出されました。また、東側と南側では瓦の列状集積が認められなかったことから、基壇は東と南にもう少し広がっていたようです。基壇内には礎石の残欠1石と礎石の抜取穴4か所が残っていた程度で、建物の規模は確認できませんでした。なお、礎石は元の位置から動いていないようですが、上部は削られていました。

仏堂南西部にあった穴からは堂屋根の棟両端を飾っていた鴟尾（しび）の破片も出土しています。



北面落下瓦集積西部（東から）



出土した鴟尾片と水煙片

落下瓦集積に含まれていた瓦は奈良時代後半以降の「播磨国府系瓦」と呼ばれているものですが、基壇の南方や調査区南西部からは飛鳥時代～奈良時代前半および平安時代前期の瓦も出土していることから、飛鳥時代に鴟尾で飾られた仏堂が建立され、平安時代まで存続していたと推定されます。

また、調査区南西隅付近では、塔の先端部を飾る水煙の破片も出土しました。掘り起こされた塔心礎が残存していることとあわせ、市之郷廃寺には塔も建立されていたことが確実となりました。

市之郷廃寺については、これまでの調査で寺域の範囲が推定されていましたが、今回の調査では築地堀の痕跡とも思えるような遺構も発見され、市之郷廃寺の内容がかなり詳しくわかるようになりました。ただし、伽藍配置や寺域はまだ未確定のままであり、今後さらに検討を重ねることが必要と思われます。

梵鐘鑄造遺構

市之郷廃寺仏堂の南と北側で梵鐘鑄造遺構が3～4基発見されました。遺構は直径1～2m程度の円形の穴で、梵鐘鑄型の破片や粘土が鑄造後に捨てられた状態で出土しました。鑄型片のうち、撞座（つきざ）や乳（にゅう）部分が出土した鑄造遺構や、梵鐘下端部分の鑄型がそのまま残っているものもありました。撞座の文様から中世末頃の時代が推定され、市之郷廃寺との直接関係はないようですが、専門の先生から、姫路の野里鑄物師集団の作と考えられるとの



梵鐘鑄造遺構（南から）

ご教示も得ています。野里鑄物師の本拠地と推定される所から今回の発見地点までは約1kmと近いことから、鑄物師集団の活動地域がこの辺りまで広がっていた可能性もありそうです。なお、大阪の陳の発端となった京都方広寺の「国家安康の鐘」も野里鑄物師の作とされています。



撞座部分の鑄型片



調査区東端の竪穴住居跡群（西から）

市之郷遺跡

市之郷廃寺東側部分では弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡が多数検出されました。

弥生時代のものは中期の円形住居跡2棟、古墳時代の竪穴住居跡はすべて方形ないし長方形で、重複も含めて約30棟が調査区内にひしめき合っています。古墳時代前期から後期にわたって営まれており、壁際にカマドを造り付けている例が多く存在しています。また、1棟は焼失住居で、上屋構造のうち梁桁や多くの垂木が炭化した状態で検出され、焼土（焦土）も多く残存していました。

なお、15～16世紀前後を中心とした多数の柱穴や石組遺構も発見しており、建物跡となるようですが、現在検討中です。時代的にみて、鋳物師集団と関連があるのかもしれませんが。

出土した遺物には、住居跡や建物跡が営まれていた時代の土器（弥生土器・土師器・須恵器）や陶器（備前焼）の

ほか、竪穴住居跡内に残されていた石器類（石鏃・砥石など）や鉄器があげられます。

なお、竪穴住居跡内から石製の双孔円盤が1点出土しています。

市之郷遺跡では、これまでの調査も含めて非常に多くの竪穴住居跡が発見されており、古墳時代の一大集落であったことがうかがえ、市之郷廃寺を建立した集団の前身として、その可能性が非常に高いといえそうです。



古墳時代の焼失住居跡



平成20年度 企画展 “ひょうごの遺跡” vol.1

うさぎ形水滴（養父市 場市遺跡）

当館は埋蔵文化財の調査機能をもった全国でも類のない博物館です。そのため、開発事業との調整を図りながら遺跡の発掘調査を行い、出土品の整理作業を行うことも博物館大切な仕事です。その成果は発掘調査報告書として刊行されます。

この企画展では、平成19年度の出土品整理作業によって新たに展示可能となった資料を紹介します。昨年度は47遺跡の整理作業を行い、21冊の発掘調査報告書を刊行しました。整理作業をとおり様々な角度から検討を加えることによって、遺跡の内容が一層明らかとなり、新たな事実も判明しています。

発掘調査の数倍の歳月をかけて、まとめられた報告書の成果をどうぞご覧下さい。

居館・城館

但馬王の居館 かきつぼ 柿坪遺跡 - 朝来市山東町 -

東西約400m、南北約1kmもの広範囲に広がる遺跡で、掘立柱建物35棟と約120棟もの竪穴住居が発見されています。南但馬の中心的な大集落として、古墳時代を中心に約600年間にわたって安定して営まれていたことが明らかとなりました。

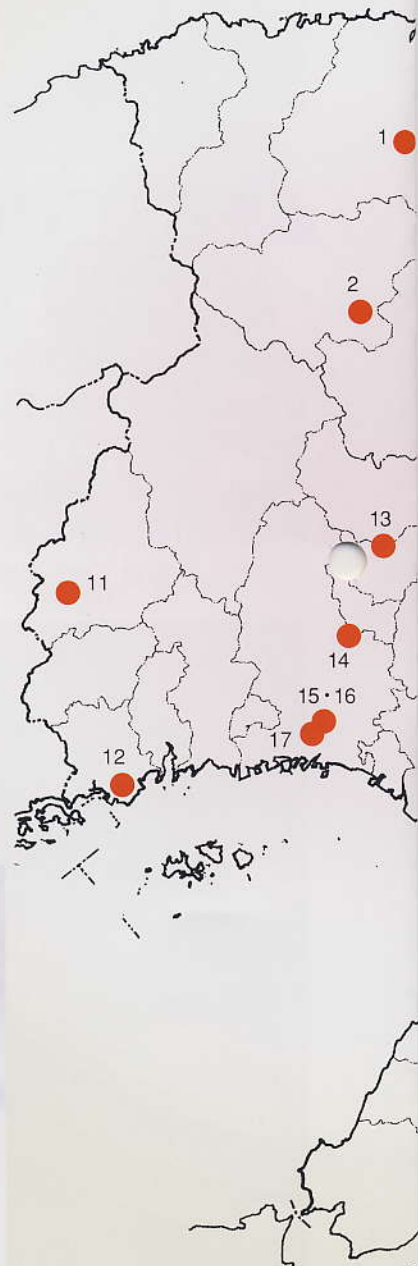
中でも、四面に庇をもち床面積が200㎡を超えるような大型の掘立柱建物と中小規模の建物から成る一角は、南但馬一帯を支配した豪族の居館であり、政事や儀礼などを行った特別な場と考えられます。遺跡の西約1.7kmにある全国最大級の円墳で、大量の鉄製武器が出土した「茶すり山古墳」に葬られた但馬王と強い関係が想定されます。



大型掘立柱建物



大量に出土した土器



ついに姿をみせた平家一門の館跡

くすのき あら たちう

楠・荒田町遺跡 - 神戸市中央区 -

源平の争乱の中、西暦1180年に平清盛は都を福原に移します。その場所はまだ特定できていませんが、楠・荒田町遺跡で発見された2本並んだ壕は、周辺に館を構えた平家一門の邸宅跡を示すものと考えられます。壕の規模は同時期の奥州平泉の館を囲む堀に比べると小規模で、2つの壕は役割も異なる可能性があります。文献の記録や伝承などから、仮御所ともなった平頼盛邸ではないかと想定されます。



2つ並んだ壕（左はV字形・右はU字形）

墳墓・古墳

尾根上に連なる南但馬の古墳

芝花弥生墓群・古墳群 - 朝来市山東町 -

山東盆地にはおびただしい数の古墳があります。柿坪遺跡の東にある山並みにも150基近く
の古墳があり、そのうち古墳時代前期から中期の古墳を11基調査しました。

古墳の埋葬施設は石棺、木棺（刳抜式と組合式）、土器棺、土壙墓があります。鉄剣や鉄
鏃、玉類などが副葬され、墓の上に土器をまとめて置いているものもありました。柿坪遺跡や粟
鹿遺跡など山東盆地の古墳時代のムラの有力者が葬られているのでしょう。

さらに古墳の下からは弥生時代後期の木棺墓や幼児を埋葬した土器棺が見つかっていま
す。木棺のまわりには土器を割って供えてありましたが、これは、但馬・丹後地域の弥生時代墳
墓に共通する特徴です。



尾根上の古墳群



弥生墓の供献土器



10号墳から出土した土器と鉄器

集落

奈良時代にもあった竪穴住居 北条遺跡 - 姫路市北条 -

奈良時代中期～後期の集落で、掘立柱建物16棟と竪穴住居1棟、畠などが見つかりました。1～3棟の建物と畠がセットになった景観が復元でき、こうした屋敷地が50年ほど続いたと考えられます。

また、一般には古墳時代以降にはなくなるカマドを持つ竪穴住居が奈良時代にも建てられていることが注目されます。



奈良時代の竪穴住居跡

井戸の中からザクザク 楠・荒田町遺跡 - 神戸市兵庫区 -

壕をもつ室町時代中頃の屋敷地が発見されました。敷地の中には深さ4m以上もの素掘りの井戸があり、その中程には多量の土師器の皿や鍋、羽釜、備前焼、瓦などが投げ込まれていました。15世紀代に使われた食器や煮炊き具の組合せがよく分かります。



井戸に棄てられた土器



井戸から出土した鍋や羽釜と皿

寺院

寺域の東側を重視 石守庵寺 - 加古川市神野町 -



播磨地域には多くの古代寺院があり、白鳳時代では約30ヶ所で礎石や塔などの遺構が確認されています。石守庵寺はこれまでの調査で同じ賀古郡内の西条庵寺とともに、塔と金堂が横に並び法隆寺と似た伽藍配置であることがわかっていました。

調査では東門とその外側の関連施設が発見されました。寺の南側には中門が無い代わりに、東面に門があり、その外側には軒先だけに瓦を葺いたと思われる特別な建物が設けられています。寺域の東側は加古川の支流である曇川が流れており、その水上交通を重視していることの反映かもしれません。

寺域の東で発見された建物跡

窯跡

窯詰め状態を保存した天井の崩落 野田窯跡^{の だ がまあと} - 加西市野上町 -

東播磨は古代より窯業生産が盛んな地域で、加西市と加古川市の市境付近には志方窯跡群^{しかたがまあとぐん}と総称される、須恵器を焼いた窯跡が数百基も存在しています。その大半は奈良時代から平安時代の窯跡です。古墳時代の窯跡は比較的少なく、播磨地域全体でも30数基が知られるのみです。

加西市北部の野田窯跡は古墳時代後期（6世紀後半）に遡る窯跡で、加西市内では初めて発見された古墳時代の窯跡です。中でも1号窯は窯詰め状態で天井が崩落しており、同時に焼かれた器の種類がよくわかります。



天井が崩落した1号窯



1号窯で焼かれた須恵器

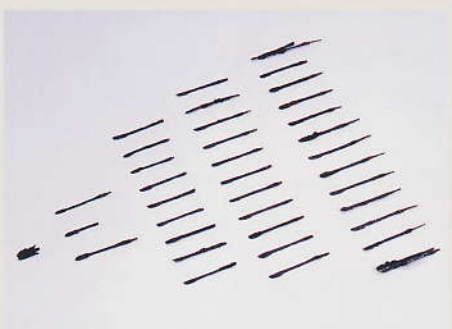
平成19年度 刊行報告書一覧

冊番号	遺 跡 名	所 在 地	種 別	主な	地図
325	北条遺跡	姫路市	集落	縄文～平安	17
326	土師Ⅰ・Ⅱ遺跡	姫路市	古墳？・集落	古墳～奈良	14
327	野田窯跡	加西市	窯跡	古墳	18
328	赤穂城下町跡	赤穂市	集落	江戸	12
329	和賀向山Ⅰ号墳	朝来市	古墳	古墳	6
	芝ヶ端古墳		古墳	古墳	
	芝ヶ端遺跡		集落・墓	弥生・中世	
	芝花古墳群		集落・古墳・墓	弥生～古墳・中世	
330	方谷古墳群	朝来市	古墳	古墳	8
331	石守廃寺	加古川市	寺院・集落	古墳～奈良	19
332	今宿遺跡Ⅱ	姫路市	集落	弥生～奈良・中世	15
	山吹遺跡		集落	飛鳥～奈良・中世～近世	
333	今宿遺跡Ⅰ	姫路市	散布地	古代・江戸	16
334	戸牧Ⅰ号窯	豊岡市	須恵器窯跡	飛鳥	1
	マムシ谷Ⅰ号墳		古墳	古墳	
335	筒江大垣遺跡	朝来市	集落	飛鳥・平安～室町	3
336	柿坪遺跡	朝来市	居館・集落	古墳	5
337	平瀬遺跡	佐用郡佐用町	集落	縄文～古墳・中世～近世	11
	円光寺遺跡		寺院	中世	
	円光寺古墳		古墳？	古墳？	
338	楠・荒田町遺跡Ⅲ	神戸市	集落	弥生・室町・江戸	20
339	楠・荒田町遺跡Ⅱ	神戸市	集落・都城跡	古墳・平安～近代	21
340	野脇遺跡	養父市	集落・城館	弥生～室町	2
	場市遺跡				
	広瀬遺跡				
341	土井遺跡	丹波市	集落	縄文～古墳・平安・近世	10
342	梶原遺跡	朝来市	集落	古墳～奈良	4
	梅ヶ作遺跡		集落	奈良～平安	
	北山遺跡		不明	不明	
	大月北山古墳群		古墳	古墳	
343	サルガク遺跡	神崎郡市川町	集落	弥生・奈良・鎌倉	13
	沢構		集落・城館	弥生・奈良～近世	
344	方谷遺跡	朝来市	集落	奈良～平安	9
345	芝花弥生墓群・古墳群	朝来市	生産・墓・古墳	縄文？・弥生～奈良	7

兵庫県立考古博物館では発掘調査を終えた遺跡の出土整理品作業を行っています。報告書を刊行して調査成果を公表するもので、発掘調査と同様に重要な作業です。平成20年度も下記のように多くの遺跡の整理作業を行っています。博物館ではいつでも見ることができますので、気軽にお越しください。



中佐治古墳群



塚ノ山古墳群



坂元遺跡

整理作業風景



平成20年度の出土品整理事業

遺跡名	所在地	備考
神出窯跡群(Ⅱ)	神戸市	平安時代～鎌倉時代の窯跡・工房
神出窯跡群(Ⅲ)	神戸市	平安時代～鎌倉時代の窯跡・工房
栃木遺跡	神戸市	中世の集落跡・弥生時代の墳墓
中佐治古墳群	丹波市	古墳時代の墳墓
田ノ口遺跡	丹波市	弥生時代～中世の集落跡
伝平等寺跡	丹波市	中世・近世の寺院
茶すり山古墳	朝来市	古墳時代の墳墓
若水古墳群他	朝来市	古墳時代の墳墓・中世の城跡
柴遺跡	朝来市	古代の集落跡
伊丹郷町・有岡城跡Ⅴ	伊丹市	近世の集落跡・墓地
南辻遺跡	伊丹市	平安時代末～近世の集落跡
原田西遺跡	伊丹市	弥生時代～中世の集落跡
大野遺跡	加古川市	平安時代～室町時代の集落跡・弥生時代～鎌倉時代の水田・水路
粟津大年遺跡	加古川市	中世の集落跡
坂元遺跡Ⅲ	加古川市	弥生時代～鎌倉時代の集落跡
窟屋1号墳	三木市	古墳時代の墳墓
吉田住吉山遺跡群	三木市	南北朝～戦国時代の城跡、古墳時代の墳墓
茂利・宮の西遺跡	多可町	弥生時代～近世の集落跡
南畝町遺跡・西延末遺跡	姫路市	弥生時代～古墳時代の集落跡
南通り遺跡	姫路市	弥生時代～室町時代の集落跡
飯田遺跡	姫路市	弥生時代末～古墳時代初めの集落跡
高木遺跡	姫路市	飛鳥時代～平安時代の集落跡
丁・柳ヶ瀬遺跡Ⅱ	姫路市	弥生時代・古墳時代・平安時代の集落跡
姫路駅周辺第3地点	姫路市	弥生時代の集落跡
竹万宮ノ前遺跡	上郡町	弥生時代～鎌倉時代初めの集落跡
東南遺跡	太子町	縄文時代～中世の集落遺跡
鷗石田遺跡	太子町	弥生時代～古墳時代の集落跡
奥村廃寺跡	たつの市	古代・中世の集落跡
宮内堀脇遺跡(その1)	豊岡市	室町時代の屋敷地
耕地谷古墳群	豊岡市	古墳時代の墳墓
宮ノ谷古墳群他	朝来市	古墳時代の墳墓・中世の城跡
三釈迦山北麓遺跡群	篠山市	弥生時代の集落跡、古墳時代の墳墓
塚ノ山1号墳	篠山市	古墳時代の墳墓
下加茂遺跡Ⅱ	洲本市	弥生時代・中世の河道・集落跡
神野大林古窯跡	加古川市	古墳時代の窯跡
三田城跡Ⅱ	三田市	近世の城跡
山田地区遺跡群	淡路市	奈良時代～近世の集落跡
下加茂遺跡Ⅰ	洲本市	弥生時代の水田・墳墓
坂元遺跡Ⅱ	加古川市	弥生時代～鎌倉時代の集落跡、古墳時代の埴輪窯
英賀保駅周辺第4地点	姫路市	縄文時代～鎌倉時代の集落遺跡

編集後記

ひょうごの遺跡69号をお届けします。前号で予告しました市之郷遺跡を中心に、平成20年度企画展「ひょうごの遺跡vol.1」の遺跡を紹介しています。昨年度刊行しました調査報告書から主な遺跡の遺物を展示しています。併せて今年度の出土品整理を簡単に紹介しました。ぜひ、博物館に足を運んで遺物のすばらしさを実感してください。バックヤードツアーも行っていますので、参加ください。



Past & Future

